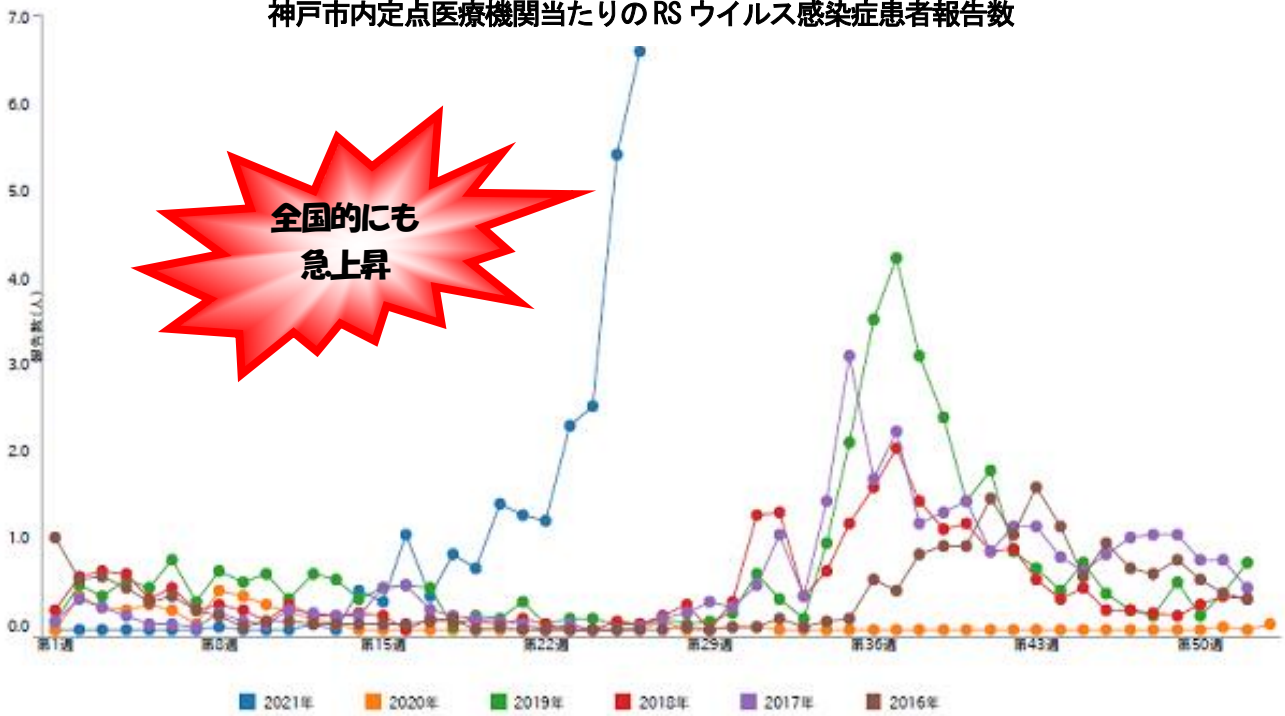


RSウイルス感染症の報告数が急増しています！

神戸市内定点医療機関当たりのRSウイルス感染症患者報告数



RSウイルス感染症でどんな病気？

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、発症の中心は0～1歳児のため保育園等で感染拡大しています。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1度は感染すると言われています。潜伏期間は2～8日、典型的には4～6日間の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、重くなる場合は細気管支炎や肺炎を起こします。治療は対症療法になります。

感染経路別の予防策

飛沫感染	接触感染	
・目・鼻・口を隠してのマスク 	・まめな手洗いと手指消毒 ・子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりの消毒 (消毒にはアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを使用) 	

感染経路は
 新型コロナウイルスと
 同じです

これも注目！

RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返します。再感染の場合には症状が軽く、感染していると気が付かない場合があります。呼吸器症状がある年長児や大人が、可能な限り0～1歳児との接触を避けることで、乳幼児の発症予防につながります。

参考：厚生労働省 RSウイルス感染症 Q&A (平成26年12月26日)